

## 汎用的解釈と慣用的解釈 接辞「御」の用例分析

日本語の接辞の一つ「御」は、日常の日本語会話において頻繁に使われている。その様々な用例は、必ずしも特徴が固定しているとはいえない。本稿は、「御」を含む構成素を調査し、その各々からどのような特徴が抽出できるかを観察した。

### 統語規則において

接頭辞での用例：ご愛嬌、お偉い、ごゆっくり、おだまり、御社、お人好し など

接尾辞での用例：親御さん、姉御 など

現れる場所の変化がない用例：ご愛嬌、お偉い、ごゆっくり、おだまり など

現れる場所の変化がある用例：おさらば、お断り など（自立語が別の品詞の語になるもの）、お人好し、お見逸れ致しました など（複数の語が接続しているもの）

### 音韻規則において

音が変化しない用例：ご愛嬌、お偉い など

音が変化する用例：おもちゃ（御+もてあそび）、おぐし（御+髪）など。また動詞に接続しているものは動詞が連用形に活用する。

音が脱落する用例：おでん（御+田楽）、お冷や（御+冷やっこい）など

### 意味解釈において

恭しさが現れやすい用例：ご愛嬌、お偉い、お呼びになる、ご愛顧 など

恭しさが現れづらい用例：おもちゃ、お笑い草、おあつらえ向き、ご飯 など

### 統語処理と意味処理の両方において

分解と統合によって言語理解する用例：ご愛嬌、お偉い、お呼びください など

分解をしない方が言語理解しやすいような用例：十八番、御曹司、お手柔らかに など

幅広く接辞「御」の用例を見ると、次の条件に当てはまるものが大半である。

1. 「御」は接頭辞である。
2. 「御」は自立語に接続し、接続しても品詞は変化しない。
3. 「御」が接続すると、動詞では連用形に活用するが、その他の品詞では接続された部分の音は変化や脱落をしない。
4. 「御」が接続された言葉は恭しい言葉である。
5. 「御」が接続された部分と「御」は、分解して理解される。

「御」を含んで構成される、容認度の低くない語・句・節を、「御」とそれ以外の部分 X に分ける。X の特徴を A、B、C の 3 種類に分類し、それぞれで現れている特徴を示すと以下ようになる。

A = ひとつの自由形態素（名詞、形容詞、副詞、動詞、挨拶語）

品詞の変化	意味の不一致	接頭辞の「御」	接尾辞の「御」
無	無		
無	有	十数例	1 例
有	無	数十例	

B = 自由形態素でなく、分解不可である語

X の品詞		接続後の品詞	接頭辞の「御」	接尾辞の「御」
補助動詞		補助動詞	数例	
造語成分		名詞	数十例	
音変化 のある	名詞	名詞	十数例	
	形容詞	名詞	数例	

C = 複数の語（自由形態素・造語成分および接辞）

接頭辞	接頭辞 「御」		接尾辞 「御」	接尾辞	助動詞	助詞	語句	
		自由形態素	+	+				1 例
	+	自由形態素		+				数十例
	+	造語成分		+				数例
	+	自由形態素			+			
	+	自由形態素				+	+	
	+	自由形態素			+	+		1 例
	+	自由形態素	自由形態素		+			1 例
	+	自由形態素	自由形態素					
	+	接頭辞	自由形態素					1 例
	+	自	自	自由形態素				1 例
	+	自	自	補助動詞	自由形態素			1 例
+	+	造語成分						1 例